

夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったか ハーモニー

# 嶮山小通信

11月号

横浜市立嶮山小学校

TEL:902-7161,7162

FAX: 904-4254

令和 3年10月29日

校長 山口 昭代

ホームページアドレス <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kenzan/>

## 今年も、嶮山小の「すこやか月間」、始まります。

～心と体の健康が、生きる力の土台です～

校長 山口 昭代

緊急事態宣言が解除され、約一か月。新型コロナウイルスの感染拡大も、ずいぶん収まりつつあるような報道に触れることが多くなってきました。学校も通常登校が再開し、夏休み以前の児童の様子が戻ってきたように感じています。

先日行われた市内の校長先生たちとの集まりの中で、次のような話題が出されました。

- ・「ようやく校外学習に出かけたけれど、バスの中で調子を悪くする子どもたちが多くて驚きました。」
- ・「乗り物酔いも、この1年半の運動経験の減少が影響しているのでしょうか。」
- ・「体育の学習も、休み時間の校庭での様子も、やはり以前と比べると活気があるとは感じられないですね。ディスタンスを意識した体育科学習という制限は、実際に難しいです。」
- ・「給食や給食時間を苦手と感じる児童が増えた気がします。」
- ・「友達との交流の仕方や距離の取り方を、低学年でも考えながら行っている。これは大きな思考や行動の変化だと思います。」

これから私たち教職員は、子どもたちの心身への、この「新しい生活様式」が与える影響を明確にして、根本的な指導改善や教育的配慮の精度を高めなければいけないと共通理解に立っています。例えば、学校生活を、コロナ禍とともに始めた低学年の子どもたちは、マスク着用が学校の生活習慣となっていますから、入学以来、友達が口をはっきり空けて発声するときの口形や表情をほぼ見たことがありません。眉と目という少なすぎる情報から、他者の感情に触れたり、気付いたりすることはとても困難なことだと感じます。そのような実態を把握して授業改善を行わなければ、適切な指導には至らないということです。

かつては、自然体での、素顔の友達とのコミュニケーションを経験していた3年生以上の子どもたちも、少しずつ現在の状況へと広がって行く変化変容の感覚をすでに持っているかも知れません。徐々に日常は回復しても、すぐにコロナ前に戻るわけではないということを、どこかで覚悟しながら準備を進めていくことが必要です。

11月は「すこやか月間」です。心と体を見つめる期間。自分の健康を、歯みがきや姿勢、体力向上、食育、読書、様々な人々との交流を通して深く考えます。また、今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染防止への実践を、子どもたちの主体的な行動化へとつなげます。

そして11月20日の「嶮山ワイワイ運動会」に向けて、体育科における「運動や健康についての課題の解決に向けて思考し判断し、他者から学んだり他者に伝えたりしながら互いに高め合い、自己の健康の保持増進と体力の向上を目指して学ぶ姿」を実現していきます。

今年度、嶮山小学校は「令和3年度神奈川県歯科保健優良学校表彰・優秀賞」を受賞しました。児童のみならずご家庭の努力と協力あつての成果です。有難く思います。

こうして嶮山小学校の特色ある教育活動が、多くの場面で発揮される11月を、感染防止を徹底しながら、丁寧に過ごしていきたいと思ひます。

保護者、地域、関係のみなさま、今月もご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。